

第10回「芥川作曲賞」決まる

望月 ^{みさと}京氏の作品「カメラ・ルシダ」に

「芥川作曲賞」の第10回受賞曲は、8月27日（日）午後3時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、望月 京氏の作曲の「カメラ・ルシダ」に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られました。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、この日、公開選考に先だって、第8回受賞者・伊藤弘之氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「オーケストラのための＜ミラーⅡ＞」の初演が行われました。

▽第10回芥川作曲賞

望月 京（もちづき・みさと）

<受賞理由>

今回の4候補作品はいずれも芥川作曲賞を受賞してもおかしくない程レベルの高いものであったが、特に望月 京氏の作品がユニークであった。写真の世界から得た新鮮なアイデアを、曲を通して最後まで明確に表現できていたことが高く評価された。

<略歴>

1969年1月東京生まれ。東京芸術大学作曲科卒業、同大学院修了。パリ国立高等音楽院作曲科、同科第3課程（博士課程）修了。96～97年、IRCAM研究員。94年以降、「秋吉台」「パリの秋」「ベルリンビエンナーレ」などの音楽祭で委嘱作品が初演されている。95年、第64回日本音楽コンクール作曲部門第1位及び安田賞、98年シュティペンディエン賞（ダルムシュタット）、99年ユネスコ国際作曲家会議優秀作品賞（パリ）受賞。

第10回芥川作曲賞 選考経過

1. 2000年4月28日（金）午後1時に東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて第1次選考会を開催。1999年4月1日より2000年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下4作品を「第10回芥川作曲賞」の候補に選定しました。選考委員は池辺晋一郎、松村禎三、湯浅譲二の3氏。（50音順）

- ・伊東 乾 作曲 <ダイナモルフィア>

 - 初演：1999.5.9. 東京オペラシティコンサートホール

 - 東京オペラシティ文化財団「1999年度武満徹作曲賞本選演奏会」

- ・法倉雅紀 作曲 <羈旅（きりょ）の歌>

 - 初演：1999.7.2. 中野ゼロホール

 - 日本交響楽振興財団「現代日本のオーケストラ音楽第23回演奏会」

- ・望月 京 作曲 <カメラ・ルシダ>

 - 初演：1999.10.17. ドナウエッシンゲン・ドナウホール（ドイツ）

 - 第78回ドナウエッシンゲン音楽祭

- ・山口恭子 作曲 <だるまさんがころんだ>

 - 初演：1999.10.3. デュッセルドルフ・ヨハンネス教会（ドイツ）

 - 文化フェスティバル「デュッセルドルフ アルトシュタットの秋」

（50音順）

2. 2000年8月27日（日）午後3時からサントリーホールにおいて上記4曲を公開演奏（指揮＝小松一彦、管弦楽＝新日本フィルハーモニー交響楽団）。演奏終了後、ステージにおいて3選考委員による公開討議を行った結果、「第10回芥川作曲賞」受賞曲に望月 京氏の作曲の「カメラ・ルシダ」が選定されました。

3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、芥川作曲賞運営委員会 委員長 岩井宏之氏により賞状、賞金（50万円）が授与されました。

なお、望月 京氏にはサントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演されます。（委嘱料100万円）

以 上